

2020.12.13 待降節第三主日

叫ぶ声の人、ヨハネ

ヨハネによる福音 1:6-8、19-28

神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。彼は光ではなく、光について証しをするために来た。

さて、ヨハネの証しはこうである。エルサレムのユダヤ人たちが、祭司やレビ人たちをヨハネのもとへ遣わして、「あなたは、どなたですか」と質問させたとき、彼は公言して隠さず、「わたしはメシアではない」と言い表した。彼らがまた、「では何ですか。あなたはエリヤですか」と尋ねると、ヨハネは、「違う」と言った。更に、「あなたは、あの預言者なのですか」と尋ねると、「そうではない」と答えた。そこで、彼らは言った。「それではいったい、だれなのです。わたしたちを遣わした人々に返事をしなければなりません。あなたは自分を何だと言うのですか。」

ヨハネは、預言者イザヤの言葉を用いて言った。

「わたしは荒野で叫ぶ声である。

『主の道をまっすぐにせよ』と。」

遣わされた人たちはファリサイ派に属していた。彼らがヨハネに尋ねて、「あなたはメシアでも、エリヤでも、またあの預言者でもないのに、なぜ、洗礼を授けるのですか」と言うと、ヨハネは答えた。「わたしは水で洗礼を授けるが、あなたがたの中には、あなたがたの知らない方がおられる。その人はわたしの後から来られる方で、わたしはその履物のひもを解く資格もない。」これは、ヨハネが洗礼を授けていたヨルダン川の向こう側、ベタニアでの出来事であった。

説教

ヨハネは預言者の一人であり、福音書はヨハネの目的についてこう書いています。

神から遣わされた一人の人がいた。その名はヨハネである。彼は証しをするために来た。光について証しをするため、また、すべての人が彼によって信じるようになるためである。ヨハネ 1:6-7

この光とはイエス・キリストのことです。光について証しするとは、イエス・キリストを証しすることです。そして、すべての人がイエス・キリストを信じることです。この目的を果たすために彼は活動＝悔い改めの洗礼活動を始めました。

ヨハネの洗礼活動を知ったユダヤ教パリサイ派の祭司たちがヨハネに3つの質問をします。

- 1) あなたはメシアか。
- 2) あなたはエリヤか。
- 3) あなたは「あの預言者」か。

ヨハネは違うと答え、パリサイ派はさらにそれではあなたは何者なのかと追及します。

「わたしは荒れ野で叫ぶ声である」とヨハネは答えました。つまりヨハネは「光」を証しする「声」が自分なのだといっています。

ところでカミナリは光であり音でもあります。空がピカッと光り、そしてゴロゴロと大きな音が聞こえます。ピカッとゴロゴロの間が長ければ遠くのカミナリで、ピカゴロの間隔が早ければ近くにカミナリが落ちたこととなります。光は音よりはるかに速いからです。

ヨハネは自分のことを「声」だといっています。そして「光」を証しすることが目的です。声＝音だとすると光より遅い声はどうやって光を告げることができるの？ 声が届くより早く光がきてしまうのではないのか。光のことを

あらかじめ知らない限り、そして早く光を予告しないと間に合いません。理屈をいえば声では光を証しすることはむずかしい、ちょっと無理なのではと思います。

光は見えないけれどカミナリの音が聞こえる、遠くで鳴るカミナリのことを遠雷といいます。たとえば遠雷はヨハネの声、彼が「荒野で叫ぶ声」です。光について証しするヨハネの叫びは救いの到来を告げる良い知らせ＝福音です。わたしたちが光を見失ってしまっても耳をすませば「声」が聞こえてくるはずです。わたしたち一人ひとりに荒野で叫ぶ声をききわたすところの耳を与えてください。そして無力なわたしたちを救いの光を受けとめることができるように変えてください。
